

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム無量寿 故郷		
所在地	大分県臼杵市末広915番地		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年2月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの理念を踏まえた上で、去年度より「地域との絆を大切に、心穏やかに家庭的な生活が送れるよう支援いたします」の理念のもと、ボランティアや行事による地域とのふれあいを大切にしています。また本人本位で、その人らしい生活が出来るよう、出来ることを見極め出来る限り寄り添った支援、出来る限り自立した生活が送れるようケアプランに基づき、統一したチームケアを目指し職員一同努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設周辺は田園風景が広がり、居室からは四季の風景が楽しめる様に、ベッドの位置などを工夫している。地域との絆を大切に、行事などに招待し、交流を深めている。母体医療法人との連携もあり各種委員会に参加し日々のケアに繋げている。モニタリングやカンファレンスに対して十分な話し合いを元に、記録も、誰が見てもわかりやすいよう工夫し、ケアの充実に繋げている。職員間の情報の共有や目標に向けてのチームケアも充実している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	過去の理念、去年の理念を職員全員、管理者、施設長と一緒に振り返り、話し合い、最も適していると考えられる理念として掲げ、共有し実践に繋げるよう努めている。	毎年、理念の見直しを行っている。来訪者も見てもらうことができるように、ホールなどに提示している。また、職員が常に目にすることで意識付けが出来、実践に繋がるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フルート・大正琴・ハーモニカ・歌踊りなどのボランティアやお寺の住職ようのご法話・近くの保育園児などが訪問してくださり、交流を行っている。	ようなボランティアを活用し交流の場になっている。行事に地域の方達を招いたり、母体のデイケアに遊びに行き友人と会う場にもなっている。母体病院での行事にも参加し家族や地域の方達との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい敬老会を行い、隣保班や地域の方をお招きし、ご家族、職員一緒に食事や余興を楽しみながら交流を図り、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現在の状況や健康状態、行事等の報告を行い、行事への参加を呼びかけて協力を得ている。また指導を頂いた転倒・転落アセスメントについて継続の方法について再度指導を受けたり、後見人の件などの指導を受けている。	2ヶ月に一度開催し、報告や話し合いを行うとともに、提案された内容について検討し、実践に繋げている。また、ような課題に対して弁護士の助言も受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回出席をしていただいて状況を報告、指導をして頂いている。包括支援センター主催の実務者会議での施設紹介に参加し、無量寿を紹介するなど協力関係を築いている。	必要に応じて訪問若しくは電話で相談し、助言を受けている。運営推進会議にも毎回出席してもらい、実情の報告をし、ケアサービスの向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	協力医療機関である白川病院と連携して、身体拘束廃止委員会に出席しており、職員に伝達、報告している。また、カンファレンスでも勉強を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	母体病院の委員会に加入し、職員へ伝達研修を行うことで理解を深めている。玄関も自由に出入りが出来、敷地内の散歩や利用者が隣のユニットへ自由に遊びに行けるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議では、弁護士さんに3回／年出席をして頂いており、虐待の社会的現状を踏まえた話を頂いたり、各種研修を受講した職員により伝達・報告を受け防止に努めている。		

事業者名：グループホーム無量寿 故郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議では、弁護士さんに3回／年出席をして頂いており、個々の必要性について話し合いの場を設けて指導して頂き、活用をしている。また各種研修を受講し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や契約書は十分に説明を行い、施設内を見学して頂き、分からないことや不安な事はないか、気軽に話して頂けるように配慮し、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に「ご意見箱」を設置、またご家族が見えられた時には、現状を伝えたり、気軽に話しかけて、心配事や要望が無いか伺うよう努めている。運営推進会議には家族に参加して頂いて意見、要望を伺い、運営に反映している。	面会時には、一緒にお茶を飲み話しやすい雰囲気作りを心掛けている。担当を決め、家族と密に関わるとともに、行事を利用し、家族同士が交流できるようにも取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長はグループホームによく来ては職員とコミュニケーションを図り、1回／月のカンファレンスでは職員のほぼ全員と施設長が出席しており、現状報告や意見交換、質問等が行われている。	朝・夕の申し送りなどを利用して、職員の意見を引出し、全員で議論を重ね検討し、支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	早出、遅出の勤務時間体制に合わせ、職員駐車場を近くに、更衣室を整えるなどの配慮を行っていている。カンファレンスでは参加手当もあり、施設長参加の元、職員全員の参加で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や勉強会への参加を積極的に受け入れて勤めてくれており、参加している。資格取得に向けての協力体制も整っており、現在勉強をしている職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホームの会に入会しており、研修に参加、勉強・交流する機会を設けている。またリーダー研修受講時には、同市内施設への実習と受け入れを行い、交流を図っている。		

事業者名: グループホーム無量寿 故郷

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は特に、不安や心配が強いであろうという事を受け止めて、職員全員が本人に寄り添えるように孤立をしないよう努めている。また担当者決めて個人の気持ちがより表出でき、職員が情報を共有できるように努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾け、不安や心配な事を表出できるよう、いつでも電話や面会など気軽に声をかけて良いことを伝え、職員側も情報を提供し、良い関係が築けるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科医である施設長が、相談に応じ診察を行い、その他のサービス利用も含めて本人と家族にとって最良と思われる選択を家族と相談、対応をしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り会話を多く持てるように話しかけ、寄り添い、喜怒哀楽を共に感じ合えるように努めている。各々が出来る手伝いを考え、暮らしを共にする皆の役に立てていることに喜びを感じていただけるように支援をしている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションや避難訓練などの行事には家族に連絡を取り、参加を呼びかけて一緒にレクを楽しんだり、車椅子を押して頂いたりして職員、家族、本人皆で支え合っているという現状を認識し良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み(ご近所)の方の面会や経営されている仕事の従業員のほうが面会にこられた時には、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮し、時には職員も会話に入り、昔のことを思い出したり話が出来るよう支援をしている。	地域の方達も自由に出入りしたり、面会にも来ている。また母体病院のデイケアを利用している友人にも会いに行ったりしている。家族の協力もあり、外出や外泊をすることで馴染みの関係を継続している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう、会話の中に一緒に入っていただけるようなコミュニケーションを図るように意識し努めている。時には席替えをして居間が居心地の良い場所であるよう努めている。		

事業者名: グループホーム無量寿 故郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、協力医療機関である白川病院に入院となった際には、情報提供を行い、またご家族を見かけた際は声を掛けてその後の状況を伺うなど居間までの関係を継続できるよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り会話をし、その中で思いや希望を伺っている。また毎月、担当者がモニタリングを行い、職員全員で把握できるように努めている。	会話を多く持つことを心掛け、職員間での情報の共有に努めている。担当からの報告を全員で話し合い、本人本位に検討し実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や主治医などに確認、センター方式を継続して取り入れており、把握やサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来ることや好きなことを会話や行動、家族からの情報などから得て、テーブル拭き、お膳拭き、箱折りなどできることの手伝い、身体に合わせた休息などを日常生活の中に取り入れていくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者がモニタリングを行い、ケアに対する課題やあり方について振り返り、職員全員で確認し、家族、主治医からも意見を聞いている。	全員で意見交換を行い、カンファレンスの充実を図っている。計画作成や変化があった場合にも、その都度話し合い、変更している。家族へは事前に要望を聞き、反映するとともに、面会などを利用して説明・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々のよう子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録を毎日行い、変化や気づき等、職員間で情報を共有できるようにし、介護に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化や介護に対し、必要と思われる支援は家族に連絡をして協力を得たり、家族が対応できない方に対しては、施設長と相談し、必要な者を職員が買い物を行う等対応を行っている。		

事業者名: グループホーム無量寿 故郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フルート・大正琴・ハーモニカ・地域の保育園児など色々なボランティアの方に来ていただき、より豊かな生活が出来るように支援を行っている。また避難訓練には地域や家族の協力を得て、一緒に訓練を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長が協力医療機関である白川病院の院長で、認知症の専門医であり、定期的に診察を行っている。また皮膚科・歯科等の協力医も得ており、必要に応じて受診している。	家族の協力も多く、専門医の受診を継続している。月に2回往診もあり、夜勤者による主治医への報告も、毎日きめ細やかに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で日々の関わりから健康状態の把握を行い、介護職員より変化について報告・相談を受けている。また病棟や外来看護職とも連携し、受診・看護を適切に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟看護師や院長より情報を伺ったり、面会をし、情報交換や支援を行っている。白川病院以外の病院に入院された家族の支援を受けられない利用者に対しては面会を行い、病院関係者より情報を得たり、精神面での支えや洗濯物の支援等を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師である施設長が必ず、本人や家族に説明・相談し、意向を確認している。職員も情報を共有し、本人や家族の意向に添える配慮した援助に努めている。	入居時に事業所の方針を説明している。出来る限り事業所に対応する為に、母体病院からの支援を受け、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長や管理者、他医療職により、緊急時の対応について指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、定期的に防災訓練を行い、地域の方の協力を得た。また、消防署と連携し、協力体制をとっている。東北大震災の教訓により震災時の避難訓練を行った。	年に2回、地域の方達も参加し、消防署立ち合いでの訓練を実施している。本年度は津波を想定した訓練も実施した。地域の避難場所にもなっており、備蓄も準備している。母体医療法人との連携も密に図られている。	

事業者名: グループホーム無量寿 故郷

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の社会的背景、家族内での役割などを考慮し、コミュニケーション、言葉掛けなどを行うように努めている。個人情報保護について研修を受け配慮を行っている。	母体病院の接遇に関する委員に参加し、職員の意識付けを図っている。職員全員にアンケートを実施し、自覚を促している。何かあればその都度、注意や指導・助言も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動や行動・表情・他の利用者との関わりなど、また会話の中から本人の希望や好みを引き出し、表情、表出できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、押し付けにならないよう、その人のペースに合わせた生活が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の洋服を選択する時は、本人の希望を聞きながら一緒に選ぶなどの支援を行っている。自分でいつも綺麗に化粧をして身だしなみを整えている利用者には認め、共感する声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時に好みを聞いたり、嗜好調査を行っている。食事は職員と一緒に会話をしながら、食後のお膳拭きやテーブル拭きなどを手伝って頂いている。	全員でメニューを作成し、母体病院の栄養士からも助言を受けている。利用者個々の能力に合わせて、野菜を切る、テーブルを拭くなどの役割を担ってもらっている。職員も一緒に会話を楽しみながらの食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分量がバランスよく十分に摂れているか摂取量のチェックを行い、嚥下状態や好み、口腔内の状況に合わせて個別に食事形態を工夫、医師やNST委員会や栄養士に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいやお茶を促したり、就寝前に口腔ケアの声掛け、セッティング、介助を行っている。毎月のモニタリングでも口腔内の観察を行い記録をしており、口腔ケア委員会に出席し口腔ケアの重要性を学び伝達・報告を行っている。		

事業者名: グループホーム無量寿 故郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、個人に合わせたトイレ介助を行い、出来る限り失敗の無いように支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、出来る限り自立支援に努めている。個々の状況に合わせ、夜間の失敗を防ぐためにポータブルトイレを配置するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が健康や周辺症状の悪化に繋がることを職員は理解しており、毎日排便のチェックを行っている。また便秘にならないよう食事、水分、運動に配慮をし、必要に応じて緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者がゆっくり、気持ちよく入浴できるように個別に対応をしており、健康状態によっては清拭を行っている。	希望があれば毎日入浴できるように配慮している。週に2～3回は、入浴してもらえるように時間や言葉かけ、雰囲気作りに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、本人の希望を考慮しながら、午睡や休息を促している。眠れない時は居間で補食や水分補給を促したり、コミュニケーションを図るなどし本人が納得して安心して入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服薬をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。個別に服薬介助、確認を行っており、服薬後の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	機能訓練を兼ねた体操やテレビ、塗り絵、読み聞かせなどを取り入れたり、裁縫、お膳拭きなど、出来る方には生活歴を生かした手伝いができるように支援を行っている。毎週音楽療法があり楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外でお茶をしたり、気候の良い時期には近くに散歩に出かけている。春には、家族の協力を得て、花見と初詣を兼ねて神社に出かけレストランで食事を楽しんだ。	主治医の助言もあり、個々に合わせた外出支援を行っている。見守りを重視することで、敷地内を自由に散歩し、外気に触れられるようにしている。季節により祭見物や遠出の外出を行っている。家族の協力を得て買い物などにも出かけている。	

事業者名：グループホーム無量寿 故郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族が望まれている方は、多額すぎない額で持たれている。買い物は希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話で電話をしている。出来ない方は職員が代わりにかけたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンから居間が見渡せ、食事を作りながら全体が見える為、安心感を得ることができる。料理を作る時の包丁の音や料理の臭いにより生活感を、食卓には季節の花を飾って季節感を感じられるよう支援している。	ゆったりとした空間に畳やソファを置き、好きな場所で過ごせるように配慮している。また、写真などを貼り思い出話などに繋げている。寒い時期にはまきストーブを焚くなど、季節に合わせた演出を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごす時は、自分の席以外に、設置している長椅子や畳のある場所に腰掛けたりして思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やテーブル、家族と写った写真、自分で作った陶芸作品を飾るなどして居心地良く過ごせるよう、またテレビやラジオを置いて楽しんでいる方もいる。	個人の趣味や思いに合わせた配慮をしている、居室から四季の風景を感じてもらえるように、家具やベットの配置等も考え居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため、絨毯やマットを使用したり、ベッドの配置等の工夫により自力での立ち上がりや移動がスムーズに行えるよう配慮を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム無量寿 山茶花		
所在地	大分県臼杵市末広915番地		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年2月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの理念を踏まえた上で、居年度より「地域との絆を大切に、心穏やかで家庭的な生活が送れるよう支援いたします」の理念のもと、ボランティアや行事による地域とのふれあいを大切にしています。また本人本位で、その人らしい生活が出来るよう、出来ることを見極め出来る限り寄り添った支援、出来る限り自立した生活が送れるようケアプランに基づき、統一したチームケアを目指し職員一同努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【 故郷ユニット に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter) です。)

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	過去の理念、去年の理念を職員全員、管理者、施設長と一緒に振り返り、話し合い、最も適していると考えられる理念として掲げ、共有し実践に繋げるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フルート・大正琴・ハーモニカ・歌踊りなどのボランティアやお寺の住職様のご法話・近くの保育園児などが訪問していただき、交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい敬老会を行い、隣保班や地域の方をお招きし、ご家族、職員一緒に食事や余興を楽しみながら交流を図り、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現在の状況や健康状態、行事等の報告を行い、行事への参加を呼びかけて協力を得ている。また指導を頂いた転倒・転落アセスメントについて継続の方法について再度指導を受けたり、後見人の件などの指導を受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回出席をしていただいて状況を報告、指導をして頂いている。包括支援センター主催の実務者会議での施設紹介に参加し、無量寿を紹介するなど協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	協力医療機関である白川病院と連携して、身体拘束廃止委員会に出席しており、職員に伝達、報告している。また、カンファレンスでも勉強を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議では、弁護士さんに3回／年出席をして頂いており、虐待の社会的現状を踏まえた話を頂いたり、各種研修を受講した職員により伝達・報告を受け防止に努めている。		

事業者名: グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議では、弁護士さんに3回/年出席をして頂いており、個々の必要性について話し合いの場を設けて指導して頂き、活用をしている。また各種研修を受講し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や契約書は十分に説明を行い、施設内を見学して頂き、分からないことや不安な事はないか、気軽に話して頂けるように配慮し、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に「ご意見箱」を設置、またご家族が見えられた時には、現状を伝えたり、気軽に話しかけて、心配事や要望が無いか伺うよう努めている。運営推進会議には家族に参加して頂いて意見、要望を伺い、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長はグループホームによく来ては職員とコミュニケーションを図り、1回/月のカンファレンスでは職員のほぼ全員と施設長が出席しており、現状報告や意見交換、質問等が行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	早出、遅出の勤務時間体制に合わせ、職員駐車場を近くに、更衣室を整えるなどの配慮を行っていている。カンファレンスでは参加手当もあり、施設長参加の元、職員全員の参加で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や勉強会への参加を積極的に受け入れて勤めてくれており、参加している。資格取得に向けての協力体制も整っており、現在勉強をしている職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホームの会に入会しており、研修に参加、勉強・交流する機会を設けている。またリーダー研修受講時には、同市内施設への実習と受け入れを行い、交流を図っている。		

事業者名: グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は特に、不安や心配が強いであろうという事を受け止めて、職員全員が本人に寄り添えるように孤立をしないよう努めている。また担当者決めて個人の気持ちがより表出でき、職員が情報を共有できるように努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾け、不安や心配な事を表出できるよう、いつでも電話や面会など気軽に声をかけて良いことを伝え、職員側も情報を提供し、良い関係が築けるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科医である施設長が、相談に応じ診察を行い、その他のサービス利用も含めて本人と家族にとって最良と思われる選択を家族と相談、対応をしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り会話を多く持てるように話しかけ、寄り添い、喜怒哀楽を共に感じ合えるように努めている。各々が出来る手伝いを考え、暮らしを共にする皆の役に立てていることに喜びを感じていたできるように支援をしている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションや避難訓練などの行事には家族に連絡を取り、参加を呼びかけて一緒にレクを楽しんだり、車椅子を押して頂いたりして職員、家族、本人皆で支え合っているという現状を認識し良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み(ご近所)の方の面会や経営されている仕事の従業員のほうが面会にこられた時には、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮し、時には職員も会話に入り、昔のことを思い出したり話が出来るよう支援をしている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう、会話の中に一緒に入っていただけるようなコミュニケーションを図るように意識し努めている。時には席替えをして居間が居心地の良い場所であるよう務めている。		

事業者名: グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、協力医療機関である白川病院に入院となった際には、情報提供を行い、またご家族を見かけた際は声を掛けてその後の状況を伺うなど居間までの関係を継続できるよう努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り会話をし、その中で思いや希望を伺っている。また毎月、担当者がモニタリングを行い、職員全員で把握できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や主治医などに確認、センター方式を継続して取り入れており、把握やサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来ることや好きなことを会話や行動、家族からの情報などから得て、テーブル拭き、お膳拭き、箱折りなどできることの手伝い、身体に合わせた休息などを日常生活の中に取り入れていくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者がモニタリングを行い、ケアに対する課題やあり方について振り返り、職員全員で確認し、家族、主治医からも意見を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録を毎日行い、変化や気づき等、職員間で情報を共有できるようにし、介護に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化や介護に対し、必要と思われる支援は家族に連絡をして協力を得たり、家族が対応できない方に対しては、施設長と相談し、必要な者を職員が買い物を行う等対応を行っている。		

事業者名: グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フルート・大正琴・ハーモニカ・地域の保育園児など色々なボランティアの方に来ていただき、より豊かな生活が出来るように支援を行っている。また避難訓練には地域や家族の協力を得て、一緒に訓練を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長が協力医療機関である白川病院の院長で、認知症の専門医であり、定期的に診察を行っている。また皮膚科・歯科等の協力医も得ており、必要に応じて受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で日々の関わりから健康状態の把握を行い、介護職員より変化について報告・相談を受けている。また病棟や外来看護職とも連携し、受診・看護を適切に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟看護師や院長より情報を伺ったり、面会をし、情報交換や支援を行っている。白川病院以外の病院に入院された家族の支援を受けられない利用者に対しては面会を行い、病院関係者より情報を得たり、精神面での支えや洗濯物の支援等を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師である施設長が必ず、本人や家族に説明・相談し、意向を確認している。職員も情報を共有し、本人や家族の意向に添える配慮した援助に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長や管理者、他医療職により、緊急時の対応について指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、定期的に防災訓練を行い、地域の方の協力を得た。また、消防署と連携し、協力体制をとっている。東北大地震の教訓により震災時の避難訓練を行った。		

事業者名: グループホーム無量寿 山茶花

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の社会的背景、家族内での役割などを考慮し、コミュニケーション、言葉掛けなどを行うように努めている。個人情報保護について研修を受け配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動や行動・表情・他の利用者との関わりなど、また会話の中から本人の希望や好みを引き出し、表情、表出できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、押し付けにならないよう、その人のペースに合わせた生活が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の洋服を選択する時は、本人の希望を聞きながら一緒に選ぶなどの支援を行っている。自分でいつも綺麗に化粧をして身だしなみを整えている利用者には認め、共感する声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時に好みを聞いたり、嗜好調査を行っている。食事は職員と一緒に会話をしながら、食後のお膳拭きやテーブル拭きなどを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分量がバランスよく十分に摂れているか摂取量のチェックを行い、嚥下状態や好み、口腔内の状況に合わせて個別に食事形態を工夫、医師やNST委員会や栄養士に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいやお茶を促したり、就寝前に口腔ケアの声掛け、セッティング、介助を行っている。毎月のモニタリングでも口腔内の観察を行い記録をしており、口腔ケア委員会に出席し口腔ケアの重要性を学び伝達・報告を行っている。		

事業者名: グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、個人に合わせたトイレ介助を行い、出来る限り失敗の無いように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が健康や周辺症状の悪化に繋がることを職員は理解しており、毎日排便のチェックを行っている。また便秘にならないよう食事、水分、運動に配慮をし、必要に応じて緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者がゆっくり、気持ちよく入浴できるように個別に対応しており、健康状態によっては清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、本人の希望を考慮しながら、午睡や休息を促している。眠れない時は居間で補食や水分補給を促したり、コミュニケーションを図るなどし本人が納得して安心して入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服薬をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。個別に服薬介助、確認を行っており、服薬後の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	機能訓練を兼ねた体操やテレビ、塗り絵、読み聞かせなどを取り入れたり、裁縫、お膳拭きなど、出来る方には生活歴を生かした手伝いができるように支援を行っている。毎週音楽療法があり楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外でお茶をしたり、気候の良い時期には近くに散歩に出かけている。春には、家族の協力を得て、花見と初詣を兼ねて神社に出かけレストランで食事を楽しんだ。		

事業者名：グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族が望まれている方は、多額すぎない額で持たれている。買い物は希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話で電話をしている。出来ない方は職員が代わりにかけたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンから居間が見渡せ、食事を作りながら全体が見える為、安心感を得ることができる。料理を作る時の包丁の音や料理の臭いにより生活感を、食卓には季節の花を飾って季節感を感じられるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごす時は、自分の席以外に、設置している長椅子や畳のある場所に腰掛けたりして思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やテーブル、家族と写った写真、自分で作った陶芸作品を飾るなどして居心地良く過ごせるよう、またテレビやラジオを置いて楽しんでいる方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため、絨毯やマットを使用したり、ベッドの配置等の工夫により自力での立ち上がりや移動がスムーズに行えるよう配慮を行っている。		